

Oct.
10月号
2019

TAP
MAGAZINE

とよたアートプログラムマガジン (TAP MAGAZINE) はアート・音楽・演劇など、とよたの「楽しい」「おもしろい」を紹介するマガジンです。

Vol.4

とよたと

アーティストたち



逸見ルチカ
「たましいのむげん旅行」
2017年

アーティストってどんな人でしょう？自分の作品が美術館に飾られたらアーティスト？何かを作り出したらアーティスト？
芸術家とアーティストって違うの？あなたの身近にアーティストはいますか？

逸見 ルチカ

今月号の素敵な表紙を描いてくれたのは、豊田市在住のアーティスト、逸見ルチカさん。ループル美術館に展示されたこともある彼女にとって「とよたで活動すること」「絵を描くってどんなこと」？



TAP 豊田市で活動すること
に対する思いはありますか？

- 展覧会をすることが増えて、色々な人に絵を見てもらうことも増えました。私

の絵を見た豊田市の方に優しい声をかけてもらったりもしました。豊田市での活動はそういう優しい人達への恩返し
の思いもあります。

TAP 今回の展示はコラージュや立体など色々な作品がありますね！特に思い出のある作品はありますか？

- 乗っていた自転車がパンクしてしまったのがショックで、

その時の自転車を作品にして今回展示しました。

あと小学3年の時のコンテストで「ぜったい入賞してやる！」
と思って書いた作品が落ちちゃって…とても悔しかったです。その作品はすごく思い出があります。(ちなみに表紙の
作品です！)

TAP 作品のキャプションが物語になっているものがありますね。どんなときに絵を描いていますか？

- 普段からふと筆を持って絵を描きたくなります！ハッピーな
気持ちのときが多いです。いろんな色を重ねたり、色を楽しんで
るうちに、その絵のテーマだったり物語が生まれてきます。

TAP 絵を描くこと以外には、どんなことをして過ごしていますか？

- 今は豊田市の山の中に暮らしていて、ゆったり過ごしています。庭で、パパがつくったブランコで遊んだりバスケをしたり。本を読むことも好きで、伝記漫画とか最近
は小説にも挑戦しています。

でもやっぱり絵を描いているときが一番多いです！



逸見ルチカ
2008年愛知県岡崎市生まれ
豊田市旭地区在住

小田原 のどか

あいちトリエンナーレ 2019 豊田会場を盛り上げてくださった参加作家の小田原のどかさん。
「豊田市での展示について」「作品を作るときに欠かせないもの」「子供の頃について」を伺いました。

TAP あなたの作品が豊田市で展示されることにどのような
意義を感じていらっしゃいますか？

- 私の作品は、彫刻や銅像や記念碑について、それらが社会から必要とされるのはどうしてなのだろうという疑問を可視化
する内容です。

愛知は長久手や桶狭間などの古戦場があり記念碑文化の成立と関わりが深い場所ですが、とくに豊田市で毎年3月に開催
されている「顕彰祭」は銅像が活用されている日本でもとても珍しいお祭りのひとつです。

今回の作品は豊田市の歴史や文化に直接的に関わるものではありませんが、そういった愛知や豊田のもつ記念碑文との深い
つながりが、作品に深みを与えてくれたと考えています。

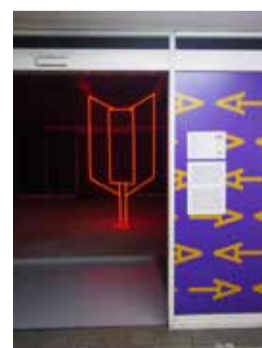
TAP 作品を作るときに欠かせないものはなんですか？

- パソコンと紙とペンと国会図書館です。

調べ物をするのも私の作品制作の大切な要素なので、国会図書館などで先行研究に当たることは欠かせません。

TAP 子供の頃はどんなお子さんでしたか？

- 3歳の頃から自分が着る洋服はすべて自分でコーディネートしていたそうです。次の日に着る洋服を枕元に畳んで置いてから寝ることが習慣だったと聞いています。



小田原 のどか
1985年生まれ 宮城県出身東京都拠点
あいちトリエンナーレ 2019 豊田会場にて名鉄
豊田市駅下と新とよパークで展示

とよたとアーティストたち

とよた市民アートプロジェクト「Recasting Club」のメンバーであり、豊田市小原地区に住みながらマルチな活躍をする安藤卓児さん。

同じく「Recasting Club」のメンバーで、さらに「とよたデカスプロジェクト 2019」で大賞を受賞した「アートデイズとよた」を企画した陶芸家の山岸大祐さん。そんなお二人に豊田市での活動についての「これまで」と「これから」をお話いただきました。

安藤 卓児

TAP 今回「としのこえ、とちのうた。」に参加されていかがですか。

-これまで、Recasting clubでの活動ではインスタレーションや、参加型の作品を作ってきましたが、本当はペインターなんです。今回のキュレーションのために中崎さんが僕のアトリエに来てくれて、色々な種類の絵がある中で、第三者的視点で掘り下げてくれました。それによって僕自身も自分のことを振り返りながら、今までの歩みを客観的に見る事ができました。この中だと、2008年の作品が一番古いんです。この作品は豊田市美術館で売っていた同館所蔵のクリムト作品のポスターを買ってきて、ステッカーを貼ったり、上からペイントなどを施して完成しました。随分過去の作品なので正直出展するつもりは全くなかったのですが、いま豊田市美術館でクリムト展が開催されていて、中崎さんが出そうと言ってくれた事で出展する事になりました。僕の制作の姿勢は、ストリートカルチャーの影響を受けています。例えばこの作品では、クリムトという権威を

安易に賛美してそのまま受け入れるのではなく、その偉大さを認めながらも挑戦し、新しく塗り替えていこうとする姿勢、哲学は今でも大切に持ち続けていて、改めて見ると、自分のマインドがよく表れている作品かなと思います。抽象絵画もいろんな作品と並行して制作していますし、キャラクターを中心に描いていたり。あとはニューヨーク帰りの時に制作した作品はその時の刺激が現れていたりとか。結構赤裸々にいろんな時代の作品を公開しています。

TAP 年代もテーマもかなりバラエティがありますね！

-スタイルが絶えず変化する、という自覚はあります。決まり事を大事にして制作をしていくよりも、その時の瞬間的な思いや純粋な衝動を大事にするようにしています。構想や実験には日々時間を費やしていますが、絵も音楽も最終的には、ほぼ即興的に制作します。

TAP 豊田市での活動することに対するの思いや、これからの展望について教えてください。

-やはり豊田市は自分の生まれ育った街なので愛着があり

ます。もっとも若い頃は不満ばかりに目がいってましたが、外に出てみて沢山の良い点にも目がいくようになり、様々な活動を通して実際に自分や家族が住む街としての豊田を自分達の手で良くしていけるという実感が現在はあります。発展途上の新しい街だからこそ可能性に溢れており、他の大都市とは違った方向へと進化していける事に可能性を感じており、アートのある街づくりに貢献していけたらと思っています。

これからの展望は、国際的なアーティストとしての活動を海外でもより活発化させながらも、今半分住んでいる豊田市小原地区の自然と共存できる暮らしを学びを深め、実践しながら発展させていき、いずれは両者を交差させる試み



にチャレンジしていきたいと思っています。田舎から世界へ。世界から田舎へ。といったイメージでしょうか。

山岸 大祐

TAP リキャスティングクラブ参加へのきっかけは？

-最初のきっかけは知人がリキャスティングクラブという活動が始まるんだと教えてくれた事です。それでリキャスティングクラブには最初の説明会から参加していました。

リキャスティングクラブの第1回目のイベント(On Stage! On High School)では旧東高の武道館で色々な屋台が並び、小皿作りの体験ワークショップをやりました。具体的なメンバー活動としての始まりはそこで、出来る時はなるべく参加しています。

TAP 今年はデカスでの活動もされていますね！

-以前はデカスに応募するというビジョンは持っていたわ

けではないです。ただ、学芸員資格をとっていたり、将来キュレーションをしたいという思いは学生の時から持っていました。

TAP 豊田市での活動に対するの思いを教えてください。

-アートデイズには豊田市出身のアーティストが出展しています。豊田市民の方には、作家が豊田市出身という事をひとつの鑑賞のきっかけにして、そこからアートに興味を持っていただけると嬉しいです。アートがもっと気軽になる状況が豊田市全体に根付いていたら嬉しいです。



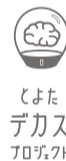
また、若者が豊田でも何か出来るんじゃないかと思える様に活動していきたいです。

芸術に積極的に関わる豊田市の若者は活動の場を求めて、他の地域を目指していると感じています。実際に僕も今まで全国展や海外での発表に目を向けて制作して来ました。僕は白水ロコさんがデカスで採択されたオープンスタジオ企画への参加依頼がK-TENの先輩経由できて、それに参加したことで市役所のルミールプロジェクトに参加して、そこら辺がきっかけで市内の活動に関わろうと思うようになって、リキャスが始まり参加しました。

TOYOTA DECASU PROJECT 2019 GRAND PRIX

ART DAYS Toyota

会期:10月1日(火)~10月14日(月・祝)
SHIMAYAGI ART



豊田市美術館内 又日亭

浦野 友理



足助地区生まれ。旭丘高校 美術科卒業。愛知教育大学 造形文化コース 染織 卒業。沖縄芸術大学 デザイン専修 修了後、美濃、沖縄、小原にて紙漉きの技術を学ぶ。現在、愛知県立芸術大学 非常勤講師。

私は素材をよく知ることが重要だと思っています。紙は、自分が求める美しさに寄りそってくれる素材であり、私自身も紙の持つ特徴に寄りそい制作したいと思える素材です。生まれ育ってきた環境や、実際に目にしてきたモノゴトから作品のイメージを貰い、制作しています。今回は古い作品も展示します。その作品は、育った土地があってこそ出来た作品です。

旗 寿恵



1993年愛知県豊田市生まれ 愛知教育大学 造形文化コース卒業 愛知教大大学院 教育学研究科芸術教育専攻 修了 現在、多治見市文化工房 ギャラリーヴォイス勤務。

愛知教育大学へ進学し、ガラス、陶芸、金工、染織の中から専攻を絞っていく課程で、土を扱うことに一番親しみを覚え、やきものを選びました。今の作品は、大学3年生の時に与えられた「手捻りとたたんで作品を作る」という課題で作ったものを元に制作しています。私は大学3年での制作で、思いきり土に触り、何も考えずに形を作っていくことの楽しさに目覚め、土の有機的な質感の面白さに魅かれました。粘土という素材での制作は手で触ると、触ったままの形が出てくるのが魅力だと思っています。その触ったままの形を活かし自分らしい作品を作るのが、今の目標でもあります。

光岡 幸一



愛知県生まれ 東京藝術大学大学院 油画科修了

元々は建築を学んでいたが、東京の下宿先から愛知の実家まで徒歩で帰った事をきっかけに人と直接関わられるパフォーマンスに興味を持ち、制作をはじめた。観察と対話によって場所の特性を見出して作品に取り込みつつ、地域の人やものと関わりながら制作を行う。主なプロジェクトに、警察に撤去されそうになっていた上野のとあるホームレスのおじさんの壊れた台車を勝手に回収して治して返そうとした。など。

アートデイズとよた 2019「Toyota Specific」は豊田でアートに親しみ、アートを通して豊田の魅力を知るための展示企画です。豊田生まれのアーティストの作品を、「豊田市エリア」「平戸橋エリア」の2つのエリアで展示します。

豊田市民芸の森内 旧海老名三平宅

伊藤 正人



1983年愛知県豊田市出身、名古屋出身。美術作家として活動する傍らで小説や自主発行のフリーペーパーでエッセイ等を執筆。主な著作に、「アインソフの鳥」note house (2017)、「仲田の海」大愛知なるへそ新聞 (2016)、「リュウズの言象」(2015-) など。

生まれてから二歳になるまで住んでいた平芝町の家がいまもまだ残っている。少なくとも築四十年ほどになる平屋建ての古い官舎で、庭がずいぶん広かった。十数年まえにたずねたときには空き家になっていて、たまたま出会った向かいのおばさん(おばさんは赤ん坊だったころのわたしをおぼえていた)といっしょにその庭へ忍び込んだ。濡れ縁にすわって庭を眺めると、おだやかな秋の光につつまれた芝生が黄金色に輝いていた。住み心地のよさそうなどころだと思った。いや、実際に二歳までそこに住んでいたのではあるが。昨年末にたずねたときは雑草が伸び放題でずいぶん荒れていたが、台所と思しき磨りガラス越しの窓辺に物が置いてあって、だれかが住んでいるような生活の気配がうっすらと漂っていた。

柄澤 健介



1987年 愛知県豊田市生まれ 2013年 金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科彫刻専攻修了

現在、主に木を素材に制作しているが、チェーンソーを使って木材を荒彫りしていると、木材の芯へ向かって内部を表出させているような感覚がある。結局それは彫られた時点で表面となりそのさらに奥に内部ができるのだが、内側の形に触れてみたいと思っている。彫ることで物質に空間が浸食し、彫刻の内側へと感覚が展開されていく。表皮(表面)を境に隔てられている関係を解体し、内と外を同時に且つ等価に形にできないか試みている。この展示では、見るともくもくしている風景に潜在するスケールを、彫刻という物質に還元し、再構築したいと思っている。

豊田市民芸館内 旧井上家住宅西洋館

三瓶 玲奈



1992年愛知県生まれ 2015年多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻 卒業 2017年 東京藝術大学大学院美術研究科 絵画専攻油画 修了

私は日常の中で印象に残った風景を描いています。風景が記憶に残る条件には、特徴のある光や風や音をはじめ、何かが起こった状況や体験など多くの可能性がります。

私が捉えたものは、光によって照らされた強い色であり、それを断片的に記憶された印象としての風景です。その印象としての風景は記憶のかぎり私の興味を惹き続け、その風景を知っているという感覚で私の視界を覆います。その風景がいつ、どこを示しているのかを知るために、私は様々な場所に訪れこの目で見ることを決めています。制作に関しても同じく、多くの風景の中を実際に歩くことによって再確認と再構築を行っています。その中で一つ、気付いたことがあります。過去に訪れたことがない場所においても、過去に使った色で、さらに同じプロセスを使った表現がしばしば繰り返されるという事実です。私は仮説を立てました。強い印象の元を辿り、意識して歩き続けるのであれば、その行為自体が自分自身の持つ原風景そのものをかたちづくり、対峙を可能にするというものです。私は、私の中の一番古い印象の記憶を知りたいと思っています。光の風景が印象に残る要因を自身の経験をもって特定し、そして、その光の景色を他者と記憶の共有としてキャンパスに留めることができるのであれば、自分自身だけでなく、絵を見る人が求める光にもコンタクトできるかもしれないと考えるからです。私は光の風景を求め、風景の中を歩き、今日も絵に向かいます。



9月に旧豊田東高校で地元アーティストらを集めた展覧会「としのこえ、とちのうた。」を企画した中崎透さん。
とよたの人々と関わりながらアートプロジェクトを進めてきた中崎さんに今回の展覧会について伺いました。

中崎 透

「としのこえ、とちのうた。」
2017年から、とよた市民アートプロジェクト「Recasting Club」では、旧豊田東高校（以下：東高）の一角を少しずつ整備しつついくつかのイベントを開催してきた。なかなかハードな場所で、最初は、電気は発電機、水は美術館から数十メートルくらいホースで引っ張り、トイレは仮設だったり。最初は、と言ってみたものの、実は今もそんなに変わってない。どうやらあいちトリエンナーレの会場の一つになるらしいし、会期に併せて何かやりたいな、と思っていた矢先に、敷地内でこれまで見逃していた奥まったエ

リアがあった。当然のことながら廃墟だ。でもなんだか想像力を掻き立てられる佇まいの一角だった。
まずは Recasting Club に参加する個性的な面々のグループ展をしたいと思った。あと、1月に開催されたトリエンナーレの地域展開事業に出品されていた荒木優光の豊田で制作した作品がとびきり素敵で、連なる展示室に散りばめられたら素敵だなと思った。この2年半ほど豊田に通う中で参加者の顔や街、背景のことが少しずつ見えてきたのもあって、豊田に所縁のある人に出品してもらいつつ、それぞれのインタビューを録らせてもらって作品と共に



その言葉も展示させてもらおうと思った。土地や街に根ざした作品や言葉、声や歌の響いて交差するような空間がなんだかこの場所にとっても似合うような気がした。

中崎 透
1976年茨城県生まれ。美術家。
Nadegata Instant Partyの一人としてとよた市民アートプロジェクトのディレクターを務める。

SENSORIAL DRIVE – ヒトと車の共感覚 – MUSIFY

豊田駅前ロータリー・とよた Ecoful town・豊田市美術館

今回とよたデカスに採択されたことがきっかけで、豊田市の色々な場所に足を運び、たくさんの方々と接する機会を得るようになりました。豊田市には、明るい勢いのある方々が多いように感じます。私にとっては初めて愛知県内のコミュニティに関わっていくことができたことを大変嬉しく思っています。(野口)
豊田市内で展示をすることで、自動車産業に関わる方々にも数多く観ていただけることが予想されます。それはエンジニアにとっては、大きな挑戦です。今後の糧となるフィードバックが得られることを期待しています。(永井)
今回、とよたデカスプロジェクトに採択されたことがきっかけで製作を始めたこの作品ですが、来年は、居住地である長久手市をはじめ、名古屋、

東京でも展示の機会を持てたらと思っています。今回出品するEVは、10年前に製作した1号機をベースに大幅な改造を施した”3号機”になります。次の4号機は、まったくのゼロからまた改めて製作してみたいと思っています。
また、私たちは二人とも福祉に興味があるので、様々なむずかしさを抱えた人をサポートできるようなデバイスの製作もしていきたいと考えています。人々を分断するのではなく人々をつなぐことに、芸術や技術の力を使っていきたいです。(野口)

試乗会・ワークショップ開催日
10月5日(土)、12日(土)、19日(土)
11月23日(土) 24日(日)、
12月14日(土)
場所と時間は <https://musify.jp/> まで!



-Road of Cannes! 2- NegaPosi FILM

11月9日(土) [映画祭]

豊田市福祉センター

ROAD OF CANNES! とグローバルなタイトルを挙げていますが目的は地方にクリエイティブな生態系を創りたい! というスーパーローカルプロジェクトです。
数年前に豊田市で市民から寄付を募り有名監督が映画を制作。しかし、撮影が終わると監督、役者、スタッフも東京に戻り残念ながら地方には制作のノウハウ等未来に繋がるものは残りません。
このプロジェクトのキッカケの一つに老いた母の言葉がありました。「もう歳なんだから畑を耕さないで!」と私。
「耕しないと土が死ぬ」とは母の言葉。
そう、よく言われる「文化不毛の地」も同じ。土を耕さない限り永遠に不毛が続きます。

地方に多くの監督、多くの作品を生み出す土壌が出来れば、脚本、役者、音楽、CGなど様々な才能に多くのチャンスが生まれ、クリエイティブな生態系が生まれます! このプロジェクトは「まちおこし」と「まちの掘り起こし」の二つの両輪を廻す前例の無い市民発信のプロジェクトです。「映画制作」と「映画制作ワークショップ」そして「とよたいかんぬ映画祭」3つの軸で地域のクリエイティブを耕し、地方創生の映画制作の文化を創りたいと考えています。いつの日か、カンヌ国際映画祭のレッドカーペットを歩く監督が、この地から生まれる事を目指して。

とよた いかんぬ映画祭 11月9日(土)
豊田市福祉センターホール 愛知県豊田市錦町1-1-1
詳細は <https://negaposi-design.jimdo.com/> まで!



-とよたハックキャンプ・variable form展 -MOBIUM

9月20(金)～10月14日(日・祝) 12:00～17:30まで開催*金土日祝のみ開館

旧豊田東高等学校グラウンド

詳細は http://www.mobium.org/toyota_hack_camp/ まで!



今回の企画「とよたハックキャンプ」は豊田市の小原地区を中心に、移動型ラボ「MOBIUM」を使って参加者と共にフィールドワークを行い、現地を観察することで発想を得て作品を作る、というプロジェクトです。小原地区は以前から興味があったので、今回調査やワークショップを行うことができよかったということと、今回デカスプロジェクトに参加することで、手助けやアドバイスをいただける他のチームや、地域の方と出会えることができ、参加できてよかったです。特に小原在住の作家の安藤さんにはとてもお世話になりました。
現地の資源ということで、特に小原和紙を使って異素材との組み合わせや、皮の代用として和紙を使った行灯太鼓を制作するなど、一定の成果は上がったかと思えます。
ただ、今年はワークショップから展示までの期間が非常に短

かったため、まだまだ調査や地元の方との交流が足りないと感じましたので今後も長い目でプロジェクトを続けられたらと考えています。
7～8月に実施した小原でのワークショップの成果展を旧豊田東高校で10/14まで開催しています。その後は10/20にも小原交流館で今回の展示と和紙で太鼓を作るワークショップを行います。
以前にも岐阜県の根尾という地域で同じような活動を行なっているのですが、バスごと工房がやってきて、ワークショップや展示を行うことができるので、さまざまな場所で展開できるかと思えます。
今回の経験をもとに、別の地区や県内外でも活動を広げられればと考えています。



AICHI TRIENNALE 2019 FINALE

75日間に及ぶあいちトリエンナーレ 2019 もいよいよ閉幕！楽しかった祭りの後に、印象に残ったこと、早くも次回のことについて豊田会場の現場を盛り上げてくれたボランティアスタッフの皆様方に伺ってきました！



あいちトリエンナーレ 2019 の活動で、印象に残っていることを教えてください。

次のあいちトリエンナーレ（2022）の芸術監督は誰がいいと思いますか？また、来てほしいアーティスト、作品は何ですか？



- ・芸術監督は YOSHIKI さん推し
- ・藤田真央さん、小林愛実さん、バンクシーの作品
- ・公募して、みんなで審査したらおもしろい。
- ・もう一度 津田大介さんに芸術監督をやってもらいたい
- ・津田大介さんのトークなど
- ・国際展なので海外の若手アーティストの作品がもっと見たい！
- ・今回のトリエンナーレは映像作品が多い印象。毎回音楽が少ない印象でもあるので、美術、映像、音楽がバランス良くあると嬉しい。できればクラシック音楽を増やして欲しい（集客が見込めないとは思いますが）
- ・アニメ、漫画
- ・美術館等の公共施設でただ展示するだけの事をやってもそれでは何処でやっても同じ。あいちトリエンナーレの意義というか顔が見える展示会を開催するべき。例えばもっとまちなかの様な施設の外に出て展示・活動するべき。「あいちトリエンナーレって良い意味でも悪い意味でも他と違うよねっ」て事が必要って事ですね。例えば対話型鑑賞の様な議論とか討論出来る展示会出来るトリエンナーレみたいなものですかね。
- ・荻上千キ、庵野秀明、大根 仁
- ・草間彌生さん。ヤノベケンジさん。監督は武藤隆さん。



- ・ボランティアに向けてトモシさんや和田さんが解説やカンペを用意してくださった。自分自身も作品を理解できたり、お客様に作品の説明を求められた時に説明もできて、トリエンナーレと一緒に楽しむ気持ちを共有して暖かい気持ちになった。
- ・豊田市に住んで20年以上経つ私以上に豊田の歴史や街を調べてくださったアーティストの作品を通して、改めて豊田の良い部分や改善した方が良い部分も見えた。
- ・日本全体に言えることだと思うが、スポーツへの関心と予算のかけ方と比べて美術や音楽への関心や予算が少ないのが残念。もっと宣伝して派手に演出しないと来場してくれないかも...
- ・せっかく良い作品が揃っているのに、大勢の方に来ていただきたい。
- ・よりアートを身近に感じることができた。作家さんたちは何ヶ月も前からこの日のために用意してきたのを知って、もっと盛り上げたいと思った。
- ・いろんな人たちの支えがあってこのトリエンナーレが運営されていることを知った。
- ・ボランティアとスタッフのコミュニケーションがうまく取れない時があった。
- ・もっと作品の近くで活動したかった。美術館等の公共施設では出入口に立っただけの活動では研修会でやった対話型鑑賞の意味が全く意味合いが無いのではというか活動して楽しくない。活動を楽しめないとお客さんを楽しませる事が出来ない。お客さんを楽しませる事が出来なければリピーターが増えない
- ・前回、前々回と異なり、自分とトリの関わりがより深く、かけがえのない物になりそうです。いや、させてみせたい。
- ・TPAC で毎週毎晩のようにアーティストやキュレーターのトークが行われたこと。
- ・豊田会場が好評で嬉しい！
- ・次回開催されるのかという危機も含めて、終わってしまうのが淋しい。
- ・豊田は、幅広い作品があり、ご案内が難しいのですけれども、来場される方々みなさまに、笑顔になっていただけるようにスタッフやボランティアで話し合いながら運営しています。ぜひ楽しんで、クリエイターさんの作品をご覧ください！
- ・SNS を気にしすぎているいやな緊張感があった。

イベント情報

10/1~10/30



日付	場所	イベント
10/5・10/12	豊田市コンサートホール	【アート・音楽】 おいでんアートおもてなしフェア
10/1~10/14	豊田市美術館 又日亭・豊田市民芸館 旧井上家住宅 西洋館・豊田市民芸の森 旧海老名三平亭 他	【アート】 アートデイズとよた Toyota Specific <とよたデカスプロジェクト 2019>
10/5・10/6 10/12・10/13	旧豊田東高等学校（豊田市小坂本町5丁目80）	【アート・音楽・その他】 HYBRID BUNKASAI II
10/5・10/12・10/19	豊田市駅前ロータリー（5日・12日 体験型展示） とよた Ecoful town(19日 試乗会)	【アート】 SENSORIAL DRIVE- ヒトと車の共感覚 - <とよたデカスプロジェクト 2019>
10/12・10/13	猿投神社（豊田市猿投町大城5）	【その他】 猿投祭り
10/12・10/13	足助八幡宮周辺（豊田市足助町宮ノ後12）	【その他】 足助祭り 2019
10/12・10/13	四郷八柱神社（豊田市四郷町東畑3）	【その他】 棒の手警固祭り
10/13・10/19	平戸橋笑劇場	【演劇】 劇団・笑劇派ばしっとライブ
10/13	道の駅どんぐりの里いなぶ周辺 （豊田市武節町針原22-1）	【アート】 月のあかり展
10/19・10/20	拳母神社（豊田市拳母町5-1）他	【その他】 拳母祭り
10/19	Jazzroom KEYBOARD （豊田市小坂本町4-1-4 小林ビル2F）	【音楽】 jazzroom KEYBOARD LIVE 森田利久カルテット
10/19	ライブカフェ足助のかじやさん	【音楽】 ほいでええだか
10/20	小原交流館	【その他】 小原文化まつり 小原歌舞伎公演
10/21	ときどきライブジョアンジョアン	【音楽】 奇妙でありやまな夜だ〜ジョアンジョアン編〜
10/22~10/27	楽風内 ギャラリー櫛（豊田市喜多町2-160）	【アート】 アンティークを楽しむ No.13
10/22	名古屋ライブホールM. I. D	【音楽】 Star☆T 定期ワンマンライブ21
10/24	豊田参合館1階	【音楽】 豊田参合館ロビーコンサート
10/26	橋ノ下舎	【音楽】 中川敬・音曲渡世ひとり旅 2019
10/30	豊田市能楽堂	【音楽】 ジャン・ロンドー チェンバロ・リサイタル in 能楽堂



とよたアートプログラム

とよたアートプログラム マガジン (TAP MAGAZINE) はアート、音楽、演劇など とよたの楽しい、面白いコトや人を紹介するマガジンです。ワクワクする毎日の片隅に。新しいとよたの発見に。TAP web サイトではより多くの情報をご覧いただけます。

<https://toyotaartprogram.jp>



とよたアートプログラム マガジン 10月号

発行日：2019年10月1日

編集：TAP編集部 表紙絵：逸見ルチカ

発行：とよた市民アートプロジェクト推進協議会

問合せ：豊田市生涯活躍部文化振興課 0565-34-6631

HP：<https://www.toyotaartprogram.jp>